

【p 116～p 121】 龍馬がのこしたもの —坂本龍馬—

1 資料活用にあたって

- 長文のため事前に読ませておく。
- 使用する学年段階に応じて、幕末の時代について教師が簡単に説明する。
- 116ページ～117ページの16行目までは、美和子がすすめられて坂本龍馬のことを調べることになった経緯について教師が要点を説明し、117ページ17行目から発問構成する進め方もある。
- 本資料では、龍馬の国の将来を思う心に気づく美和子を通して、国を愛する心（内容項目C（17））について考える。
- 内容項目C（17）における愛国心の扱いについては、郷土を愛する心が日本全体に開かれたものへと発展し、国を愛する心が児童の内面から自覚されることが大切である。本資料では、「龍馬と神戸のかかわり」を考えていた美和子の視点が、桃々の話をきっかけとして「日本を思う龍馬」に広がることにも着目させたい。

2 資料の読み方のポイント

- 変化するのは：美和子
- 変化するきっかけ（助言）は：「もしもよ、龍馬が今の美和たちと出会ったら、何て言うかしら。」
- 変化するところは：「桃々姉ちゃん、なんだか、わかるような気がする。」
- ※ 変化するきっかけとなった桃々の問いかけは、美和子に「日本のことを思う龍馬の心をもっとわからせよう」という意図があり、美和子はその問いかけを考えることを通して龍馬の心を深く理解する。

3 読み物資料の素材について

【参考URL】

- ・ 高知県立坂本龍馬記念館
<http://www.ryoma-kinenkan.jp/>

○ 坂本龍馬と神戸海軍操練所

1862年	10月頃	勝海舟を訪問し、その場で弟子入りする
1863年	5月16日	神戸の海軍塾創設のため、勝の使者として越前福井へ向かう。
	10月	海軍塾塾頭になる
1864年	10月	神戸海軍操練所が事実上閉鎖。龍馬らは薩摩の庇護を受ける

- ・ 1863年（文久3年）、鎖国政策の崩壊により海防の必要性が高まっていた折、勝海舟は神戸に海軍操練所の設立を提案した。これは海軍兵学校と海軍機関学校を兼ねたものであり、日本に欧米と肩を並べる海軍を建設するための足がかりを作ろうとした。翌年の1864年（元治元年）から勝は生徒の募集をはじめますが、幕府に反対する者でも入所を認めたことが問題となり、わずか1年で操練所は閉鎖されてしまった。
- ・ 操練所の開所期間は非常に短かったものの、その間に坂本龍馬・陸奥宗光（むつむねみつ）など新しい時代を担う人々を育て、日本の海軍の歴史にも大きな足跡を残した。
- ・ 勝海舟の海軍塾の塾頭になった龍馬は、その後、海軍塾や海軍操練所で身につけた航海術をいかして、長崎に商業と海運業の仕事をする会社「亀山社中（のちの海援隊）をつくった。
- ・ 海軍操練所跡は現在の中央区新港町にあり、錨（いかり）の形をした記念碑が建っている。

4 展開の具体例

龍馬がのこしたもの —坂本龍馬—

- ・ **主 題 名** ・ 国を愛する心 C (17)
- ・ **資料の概要** ・ 美和子は、夏休みの宿題で調べる「神戸に関係のある歴史上の人物」として、いとこの桃々から坂本龍馬を薦められる。最初、あまり乗り気がしない美和子であったが、父から話を聞いたり本で調べるうちに、龍馬の世界観や国を思う気持ちに共感し始める。そして、桃々から、龍馬の思いが多くの人たちに受け継がれていたことを聞かされた美和子は、自分たちもこの国の将来を託されていることを自覚し始める。
- ・ **ね ら い** ・ 龍馬の国を思う心を知り、道徳的に変化する美和子を通して、我が国の発展に尽くした先人の努力を知り、国を愛する道徳的心情を育てる。
- ・ **展開の概要**

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導 入	・ 今日の資料に興味を持つ。	坂本龍馬についてどんなことを知っていますか。
展 開	・ 資料の範読を聞きながら黙読をする。	
	・ 「この国を洗濯してみせる」という龍馬の言葉を見つけた時の主人公の気持ちを考える。	本を読み返し、「この国を洗濯してみせる」という龍馬の言葉を見つけた美和子は、どんなことを思ったのでしょうか。 ・ 洗濯ってどういうこと。 ・ 日本の国に対して熱い思いをもっていたんだね。
	・ 桃々から龍馬についての話を聞いた時の主人公の気持ちを考える。	「日本をなんとかしなきゃ」という龍馬の思いを桃々から聞いた時、美和子はどんなことを思ったのでしょうか。 ・ 龍馬は日本の国を愛して、新しい日本を夢見ていたんだな。 ・ 沖田総司もかっこいいけど、龍馬の生き方もかっこいいな。
	・ 桃々の問いかけの答えがわかった時の主人公の気持ちを考える。	「桃々姉ちゃん、なんだか、わかるような気がする…」と言った時、美和子はどんなことを考えたのでしょうか。 ・ 「この神戸で夢見ていた国に近づいているかね。」と龍馬さんは語りかけているんだ。 ・ 「君たちは日本の将来のことを考えてくれていますか。」と龍馬さんは語りかけているんだ。
	・ 桃々と顔を見合せて笑う主人公の気持ちを考える。	桃々と顔を見合せて笑った美和子は、どんなことを考えていたのでしょうか。 ・ 自分たちの国のことをしっかりと考えていかなくては。 ・ 日本の将来を真剣に考えていた龍馬さんの熱い思いを、私たちも受け継いでいかなくては。
終 末	・ 自分の考えを書く。	自分の考えを道徳ノートに書きましょう。

「この国を洗濯してみせる」という言葉から、龍馬が世界の中の日本を視野に入れて行動していたことに主人公が注目していることをおさえる。

龍馬の思いを知った主人公に日本の国のことを思う意識が起こっていることをおさえる。

桃々の問いかけに対して、宗光の気持ちを想像することを通して、龍馬の「日本の国のことを思う」心を主人公が理解していることをおさえる。

龍馬の国を愛する心に思いを馳せる主人公が、日本の国のことを思う心情を高めていることをおさえる。